

しよつか しよつかについて

ぐち 愚痴のなみだ

このご唱歌は太良町
おおつらひらはま ちく
大浦平浜地区に伝わっ
ねんぶつ さんか
ている念仏讃歌の歌詞
かし
です。

一、愚痴のなみだの出るときは
お慈悲の袖でのごわんせ
ほんにお慈悲は強いもの
ぐち ほんの に
愚痴も煩惱も逃げてゆく

このご唱歌の歴史、

二、嬉しかろうがかるまいが

および歌詞の作者につ
かし さくしや
いては不明です。
ふめい

地獄に墮ちよが墮ちまいが
じじく お お
それは凡夫の要らぬ世話
ほんぶ い せわ

・ 愚痴のなみだ

この弥陀ひとりに任せおけ
みだ まか

・ 御恩報謝花づくし

・ 懺悔花づくし

三、泣いて暮らすも五十年
な 暮らすも五十年
わひ 一じゅうねん

・ よろこび

笑って暮らすも五十年
わひ 暮らすも五十年
わひ 一じゅうねん

泣いて暮らすも笑うにも
な 暮らすも笑うにも
わひ

心一つのおきどころ
こころ 一つのおきどころ

御恩報謝花づくし

一、花の都に至るには

み法一つは菊の花

きけば信心瓜の花

獲れば摂取の抱き牡丹

五、すぐに浄土の蓮の花

宝の花の数々を

眺めてつきぬ悟りとは

さても尊や南無阿弥陀

二、頼めば弥陀は撫子の

色にも見えた山吹の

香りも高き梅の花

下りてうれしや藤の花

三、迷いの綱はキリシマで

罪と障りは芥子の花

疑いひとつは梨の花

聞きたびごとに初花で

四、行者の称名ツゲの花

月日も早くタチバナで

年もつもれば苔の花

無常の風に花散らば

懺悔花づくし

一、 ああ恥はずかしや今いままでは

ふかきお慈悲じひを朝顔あさがおに

いつも桔梗ききょうと思おもうては

日々ひびに悪業あくごうかさねつつ

二、 月日つきひはいつも橘たちばなで

命終いのちのおれば火車ひぐるまの

地獄じごくはわたしすみればなの蓮花

心こころの鬼おににせめらるる

三、 知しれたる私わたしの福寿草ふくじゅそう

一心いっしんこめて菊きくの花はな

造つくりし罪つみも芥子けしの花はな

たとい命いのちは終おわるとも

四、 必かなず地獄じごくは梨なしの花はな

極楽浄土ごくらくじょうどの蓮はすの花はな

すわる私わたしの幸あちせを

思おもえば心こころも百合ゆりの花はな

五、 昔むかし思おもえば恥はずかしや

尊とうときみ法のりの紫陽花あじさいも

知しらざる癖くせに夕顔ゆうがおの

み親おやを相あ手に花菖蒲はなしょうぶ

六、 いつも恥はじをば牡丹花ぼたんばな

今いまは勝負しょうぶをするよりも

心こころ一つに下さがり藤ふじ

下さがれば弥陀みだは抱だき牡丹ぼたん

七、 一よの世よは無常むじょうの桜花さくらばな

未すえ来きたは悟さとりの苔こけの花はな

聞きく私わたしの幸あわせを

何なににたとえん物ものもなし

八、 まわらぬ筆ふでに喜よろこびを

書かきつづりたる花はなづくし

あありがたや南無阿弥陀なむあみだ

ささても尊とうとや南無阿弥陀なむあみだ

よるいび

一、私わたしや七十しちじゅうになりました
お浄土じやうど参まゐりの夢ゆめを見みた
死しにどますんみやかのう嫁女よめい
そんなら私わたしが説ときましょ

二、七十しちじゅう、八十はちじゅうはまだ早はやい
七十七しちじゅうしちはやくの年とし
八十八はちじゅうはちは祝いわい年とし
九十九くじゅうじゅう歳の明あけの年とし

三、金欄きんらん緞子じゆんすを身みにまとい
あやめ錦にしきの衣い着ぎて
笙簞しやうたん築きの音おん楽がくで
私わたしや浄土じやうどの花嫁はなよめに

四、一いちじぎゃんきたなか女おんなでも
もろてやろうのお約束やくそく
おどまどぎゃんしゆうかちやあがつか
嬉うれし恥はずかし南無阿弥陀なまあみだ